

授業科目名	開講 年次	開講 期間	単位数	授業 形態																																							
がん看護学特論Ⅳ(がん薬物療法看護論)	1	後期	2	講義 30時間																																							
担当教員	岡本明美、荻津佳奈江、吉岡多美子、濱道彩、深山直実、安室修、伊勢崎竜也、小倉宏之																																										
授業概要	がん薬物療法のレジメンについて理解を深め、がん薬物療法を受ける患者に生じる有害事象の予防・早期発見・早期対処を行うための臨床判断および患者のセルフケア能力を高めるための援助方法について探究する。また、がん薬物療法を継続することを支える援助方法について探究する。																																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. がん薬物療法を受ける患者の特徴、アセスメントおよび援助方法について説明できる。</li> <li>2. がん薬物療法で使用する薬剤の特性と作用機序、有害事象について説明できる。</li> <li>3. がん薬物療法を受ける患者の療養生活を支援するための臨床判断ができる。</li> <li>4. がん薬物療法の有害事象による日常生活への影響、ガイドライン、支持療法を理解し、有害事象に対する臨床診断方法や治療中の生活の質を高めるためのセルフケア能力を高めるための援助方法について討議する。</li> </ol>																																										
履修条件	特になし																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1-2</td> <td>がん薬物療法を受ける患者の特徴、アセスメント、看護目標、看護実践と評価</td> <td>岡本</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：細胞障害性抗がん薬</td> <td>安室</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：分子標的薬</td> <td>安室</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：内分泌療法薬</td> <td>伊勢崎</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：免疫チェックポイント阻害薬</td> <td>小倉</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>外来通院しながらがん薬物療法を受ける患者の特徴と看護</td> <td>吉岡</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>がん薬物療法を受ける肺がん患者の看護</td> <td>岡本</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>がん薬物療法を受ける大腸がん患者の看護</td> <td>岡本</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>がん薬物療法を受ける乳がん患者の看護</td> <td>岡本</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>がん薬物療法を受ける造血器腫瘍患者の看護</td> <td>荻津</td> </tr> <tr> <td>12-13</td> <td>がん薬物療法における有害事象とセルフケア支援：骨髄抑制、消化器症状、末梢神経障害、皮膚障害</td> <td>深山</td> </tr> <tr> <td>14-15</td> <td>がん薬物療法を受ける患者の治療継続を支える支援</td> <td>濱道</td> </tr> </tbody> </table>				回	内容	担当教員	1-2	がん薬物療法を受ける患者の特徴、アセスメント、看護目標、看護実践と評価	岡本	3	がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：細胞障害性抗がん薬	安室	4	がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：分子標的薬	安室	5	がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：内分泌療法薬	伊勢崎	6	がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：免疫チェックポイント阻害薬	小倉	7	外来通院しながらがん薬物療法を受ける患者の特徴と看護	吉岡	8	がん薬物療法を受ける肺がん患者の看護	岡本	9	がん薬物療法を受ける大腸がん患者の看護	岡本	10	がん薬物療法を受ける乳がん患者の看護	岡本	11	がん薬物療法を受ける造血器腫瘍患者の看護	荻津	12-13	がん薬物療法における有害事象とセルフケア支援：骨髄抑制、消化器症状、末梢神経障害、皮膚障害	深山	14-15	がん薬物療法を受ける患者の治療継続を支える支援	濱道
回	内容	担当教員																																									
1-2	がん薬物療法を受ける患者の特徴、アセスメント、看護目標、看護実践と評価	岡本																																									
3	がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：細胞障害性抗がん薬	安室																																									
4	がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：分子標的薬	安室																																									
5	がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：内分泌療法薬	伊勢崎																																									
6	がん薬物療法で用いる薬剤の特性と作用機序：免疫チェックポイント阻害薬	小倉																																									
7	外来通院しながらがん薬物療法を受ける患者の特徴と看護	吉岡																																									
8	がん薬物療法を受ける肺がん患者の看護	岡本																																									
9	がん薬物療法を受ける大腸がん患者の看護	岡本																																									
10	がん薬物療法を受ける乳がん患者の看護	岡本																																									
11	がん薬物療法を受ける造血器腫瘍患者の看護	荻津																																									
12-13	がん薬物療法における有害事象とセルフケア支援：骨髄抑制、消化器症状、末梢神経障害、皮膚障害	深山																																									
14-15	がん薬物療法を受ける患者の治療継続を支える支援	濱道																																									
教科書	なし																																										
参考書	日本臨床腫瘍学会編集：新臨床腫瘍学ーがん薬物療法専門医のために、第5版、2018.																																										
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、作成資料(40%)、プレゼンテーション(40%)を総合して評価する。																																										
事前・事後学習	<p>事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。</p> <p>事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。</p>																																										
備考	荻津、吉岡の講義は遠隔で実施する。																																										